

発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関する申合せ

平成 28 年 1 月 4 日
動物実験委員会制定

(目的)

第1 この申合せは、埼玉大学(以下「本学」という。)における動物実験及び実験動物の飼育において、人及び他の動物に危険を与えるおそれのある発がん物質又は公害源となるおそれのある有害性重金属等の危険物質(以下「発がん物質等危険物質」という。)を用いる場合の危険防止及び公害防止のために必要な事項を定めるものとする。

(対象)

第2 次に掲げる発がん物質等危険物質を使用する場合を対象とする。

- (1) 国際がん研究機関による発がん性リスクがグループ1(発がん性がある)、グループ2A(おそらく発がん性がある)、グループ2B(発がん性があるかもしれない)である化学物質
- (2) 発がん性を有する可能性がある化学物質
- (3) 水銀、鉛、ヒ素、カドミウム等の体内に蓄積し、健康を害する有害性重金属

(申請)

第3 発がん物質等危険物質を用いた動物実験等(以下「危険物質投与実験」という。)を実施しようとする者は、「発がん物質等危険物質投与実験申請書」(別紙様式)を動物実験委員会(以下「委員会」という。)が定める「動物実験計画書」に加えて委員会に提出しなければならない。

(審査)

第4 委員会は、危険物質投与実験に関する審査を行うときは、「危険物質投与実験室の設備及び運用について」(別紙)に基づき行うものとする。

2 委員会が必要と認めたときは、発がん物質等危険物質に関する専門家の意見を聴取することができる。

(危険物質投与実験の実験室)

第5 危険物質投与実験は、委員会が「危険物質投与実験室の設備及び運用について」(別紙)に定める基準をもとに適正と判断した実験室において行わなければならない。

(報告)

第6 危険物質投与実験をする者は、当該実験室の管理に異常があると認めたときは、速やかに管理者及び委員会に報告しなければならない。

(実験の中止等)

第7 不適切な危険物質投与実験が実施されている場合は、委員会の判断により当該実験の中止その他措置を講ずることができる。

(雑則)

第8 この申合せに定めるもののほか、危険物質投与実験に関し必要な事項は、委員会が別に定めることができる。

附 則

この申合せは、平成 28 年 1 月 4 日から施行する。

別紙 危険物質投与実験室の設備及び運用について

1. 発がん物質等危険物質を取扱う場合及び当該物質を投与された動物を処置する場合は、原則として安全キャビネット等の陰圧装置を使用する。
2. 発がん物質等危険物質を投与された実験動物の飼育は、当該物質を体外に排泄する危険性がある期間は陰圧の飼育装置で行い、原則としてディスポーザブルの飼育ゲージ等を使用し、使用後は感染性廃棄物に準じて取り扱う。
3. 発がん物質等危険物質に汚染された床敷等は全て回収し、感染性廃棄物に準じて取扱い、焼却等の処理を行う。
4. 当該実験室に由来する当該物質の排水・廃液は、さいたま市の規制値以下でなければならない。規制値を超えることが予想される場合は、回収して適切に処理しなければならない。
5. 発がん物質等危険物質を投与した実験動物は、当該物質を体外に排出する危険性がある期間内は指定エリア外に持ち出すことを原則として禁止する。
6. 危険物質投与実験室および指定エリアにおける飼養管理は実験実施者が行う。
7. 危険物質投与実験室および指定エリア内の作業従事者は、予め取扱う動物及び危険物質取扱いについて習熟していなければならない。

発がん物質等危険物質投与実験申請書

埼玉大学長 殿

下記の動物実験計画について、埼玉大学における発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関する申合せに基づき申請しますので、承認願います。

受付番号

承認番号

研究課題等	
-------	--

実験責任者名	フリガナ	部 局 名	職 名	連絡先電話番号
	氏名 e-mail @			
実験従事者名 (氏名にはフリガナ)	()			
	()			
	()			
	()			
	()			

投 与 物 質	名称
	物理化学的性質（形状、分子量・性状（温度・pH・光など）、揮発性、引火性、安定性など）、健康に対する有害性（急性毒性、生殖毒性、変異原性、発がん性、許容濃度など）、環境に対する有害性（生態毒性、残留性など）、取扱い上の注意、その他知られている事実を記入する（必要に応じてデータシート等を添付する）。
	国際がん研究機関による発がん性の評価またはその他発がん性物質、有害性重金属等の分類（選択項目を☑） グループ1 グループ2A グループ2B 発がん性を有する可能性がある物質 有害性重金属

実験実施期間	20()年 月 ~ 20()年 月				中止・終了等	20()年 月 日	
動物飼育場所及び 実験実施場所	動物飼育場所			実験実施場所			
	動物種	系 統	性 別	匹 数	微生物学的品質	入手先(生産企業)	備 考
使用動物 (当該実験に関わる ものを記載する)							
投 与 方 法	(投与方法・頻度・総投与量を記入する。)						

<p>予想される危険性と危険防止対策</p>	<p>投与した発がん物質等危険物質の動物体内での代謝・排泄・蓄積等、飼育室・ケージ内での有害物質の有無等</p>
	<p>投与終了後、使用動物が当該化学物質を体外に排出していると考えられる期間</p>
	<p>実験上の注意事項、危険防止対策ならびに室内等への環境汚染防止対策（汚染された場合の対処方法も記入する。）</p>
	<p>排水を通して周辺環境を汚染する危険性の有無ならびにその対策</p>

<p>動物実験委員会の本 実験計画に対する意 見等 (委員会記入欄)</p>	<p>審査終了: 20()年 月 日</p>
	<p>修正意見等</p> <p>審査結果 本実験計画は、埼玉大学における発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関する申合せに適合する。</p> <p>本実験計画は、埼玉大学における発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関する申合せに適合しない。</p>